

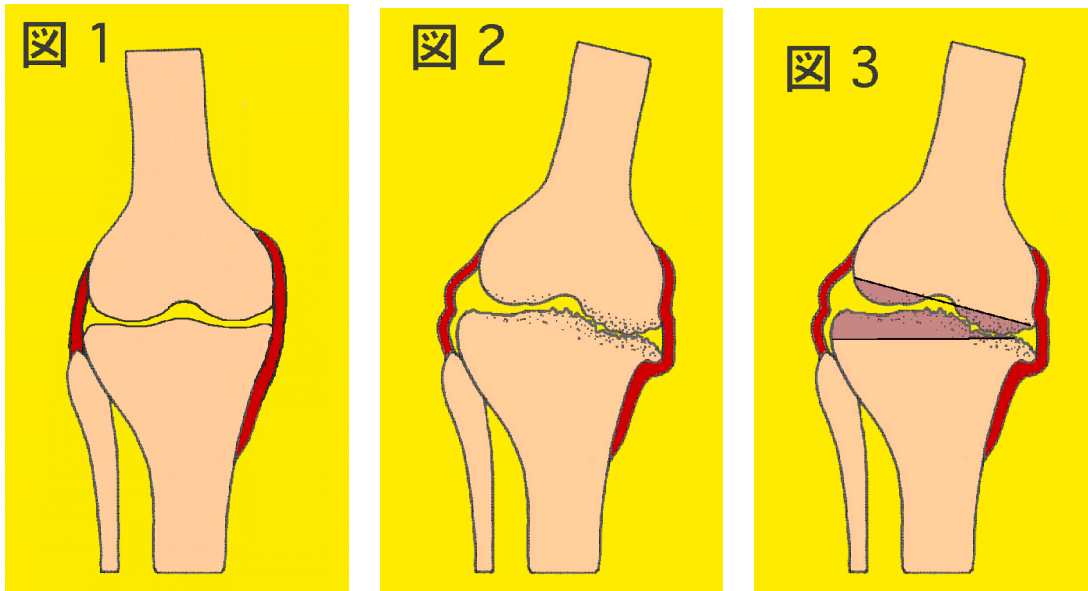
人工膝関節手術とは

1. どのような人が人工膝関節手術を受けるのですか？

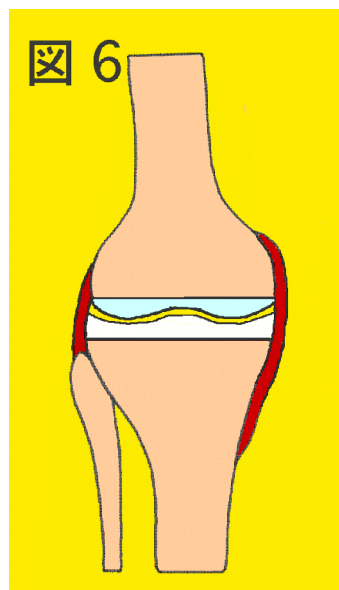
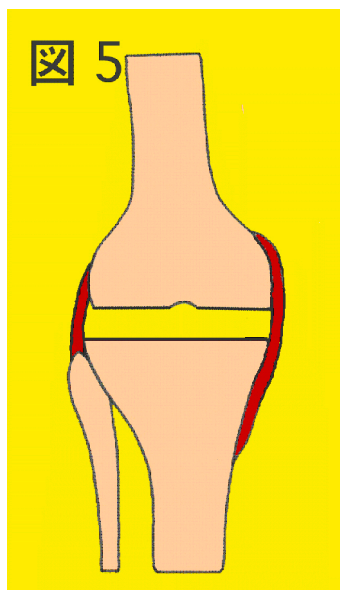
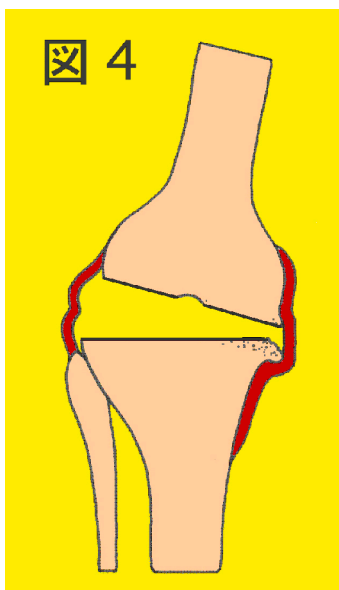
おもに変形性膝関節症や関節リウマチの患者さんで、膝の軟骨がすり減った状態となり、痛みが強くて歩けないかた、膝の屈伸ができなくなったかたがこの手術の対象となります。

2. 手術はどうやって行うのですか？

全身麻酔で行います。以下に変形性膝関節症のかたを例に説明します。関節リウマチの患者さんも基本的に同じです。



- 1) 図 1は正常な膝関節で、軟骨はすり減っておらず、膝もまっすぐです。
- 2) 図 2は変形性膝関節症のかたで、正常な軟骨は内側では消失してしまい、膝を支える靭帯も内側はつっぱって、外側はゆるんでしまっています。その結果、O脚変形（がにマタ）になっています。
- 3)手術はまず傷んだ部分の骨を削り取ります。この部分の骨を削りますと図 3 図 4のようになります。
- 4) 次につっぱったり、ゆるんだりしている靭帯の緊張を等しく整えて、膝をまっすぐにします（図 5）。
- 5) ここに人工骨を入れ、接着剤（骨セメント）で固定します（図 6）。



3. 人工骨は何でできているのですか？

大腿骨側（水色の部分）は金属（クロム・コバルト・モリブデン合金）で、脛骨側（白の部分）はプラスチック（超高分子ポリエチレン）です。

4. 痛みはとれるのですか？

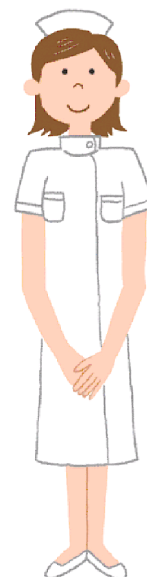
今まですり減った骨どうしてゴリゴリと動かしていた部分が、金属とプラスチックのすりあわせになりますから、もう痛みは感じません。

5. 膝はどれくらいまがりますか？

工業病院でこれまで行った患者さんの平均値では、膝を完全に伸ばした状態から 120° くらいまでまがります。120° は自転車に乗れるくらいの角度です。ただし正座はできません。かりにできたとしても人工骨に負担のかかる正座はしないように指導しています。

6. どれくらいの耐久性がありますか？

人工膝関節も長年使用しますと、プラスチック部品の摩耗、取り付け部のゆるみ、などが出現しますので、永久にもつわけではありません。使い方しだい（人工膝関節で重労働やスポーツなどはしない）ですが、およそ20年くらいの耐久性があります。大事に使えばもっと持ちますので手術後は不具合が生じないかどうか定期的に検診させていただきます。



7. もしダメになったらどうするのですか？

部品の交換手術をして新品にとりかえます。

8. 入院期間はどれくらいですか？

高齢者では歩くためのリハビリテーションなどの治療期間を全てふくんで4週間程度の入院となります。2週間で退院されたかたもいらっしゃいます。

両膝同時手術の場合は6週間ぐらいの入院となります。

退院後は定期的に診察させていただきますがリハビリのための通院は不要です。



9. 手術はむずかしいのですか？

どこの病院でも行えるという簡単な手術ではありませんが、工業病院ではこれまでに1000件以上の人工関節手術を行っており、この手術の経験は豊富です。また厚生労働省の指定する人工関節手術の施設基準も認可されています。

10. 合併症にはどんなものがありますか？

合併症がまったくないという手術はありません。完璧に行われた手術でも予期せぬ合併症がおこることはあります。

予防のためにまずは患者さまご自身の病気、たとえば糖尿病があるとか、心臓が悪いとかによって手術後の合併症が起こりやすくなりますので、手術前にすべて検査させていただきます。

人工膝関節手術の合併症としては、創の遷延治癒（キズのなおりが遅いこと）、深部静脈血栓症や肺塞栓症、転倒などによる骨折、術後感染（手術の化膿）など、合わせて5%程度のかた（100人に5人）に起こりますが、いずれも適切に対処させていただきます。

深部静脈血栓症 肺塞栓症については別のパンフレットにて詳しくご説明しております。

その他、わからないことは何でもおたずね下さい。

川口工業総合病院 整形外科

〒332-0031埼玉県川口市青木 1-18-15 Tel: 048-252-4873 Fax: 048-252-4865